

県内の河川およびダム湖におけるコクチバスの生息状況Ⅱ

臼杵崇広・佐野聡哉・田口貴史

1. 目的

県内においてコクチバスの分布の拡大が危惧される水域でその生息状況を把握した。

2. 方法

昨年度、本種の繁殖を確認したダム湖B（甲賀地域）の下流の河川Bにおいて平成28年5月6日から6月1日に河口までの本流（流路延長 65.25km）の要所において、釣り（餌：主に活スジエビ）および目視により生息状況を調査した。一部の水域では、背負い式電気ショッカー（スミスルート社製 LR-20B）による採捕調査を実施した。

また、昨年度と同様にダム湖A（湖東地域）、ダム湖B、C（ともに甲賀地域）において全国内水面漁業協同組合連合会所有の電気ショッカーボート「ぜんない1号」（以下、EFBという。）により採捕調査を行った。ダム湖Cについては、平成28年4月下旬、5月下旬、6月上旬、10月上旬に、ダム湖AおよびBについては、同年5月下旬に調査を行った。

3. 結果

ダム湖B直下の河川Bの上流域（写真1）において釣りにより本種を1尾（写真2）捕獲し、目視で1尾確認した。さらに下流のダム湖B'につながる淀み（写真3）で目視により1尾確認した。それより下流においては、今回の調査では、捕獲も目視による確認もされなかった。しかし、本研究以外の調査において、今回本種が確認された水域より下流の中流域でも捕獲されており（H21 水試調査、H28 水産課情報）、ダム下から少なくとも中流域までは広く分布しているものと考えられた。

いずれのダム湖でも5月下旬のEFB採捕調査時には、浮上仔稚魚（写真4）が確認され、浅場に形成される巣に執着する親魚が少なか

った。このため、大型サイズの捕獲は少なかったが、複数の年級群が捕獲された（図1）。

以上から、分布の拡大を防ぐためには、本種の供給源と考えられるダム湖とその下流のまだ低密度で生息していると考えられる河川において早急な駆除対策が必要である。



写真1 河川B（上流域）の捕獲、目視確認地点



写真2 捕獲されたコクチバス



写真3 河川B（上流域）の目視確認地点



写真4 ダム湖Cで捕獲された浮上仔稚魚

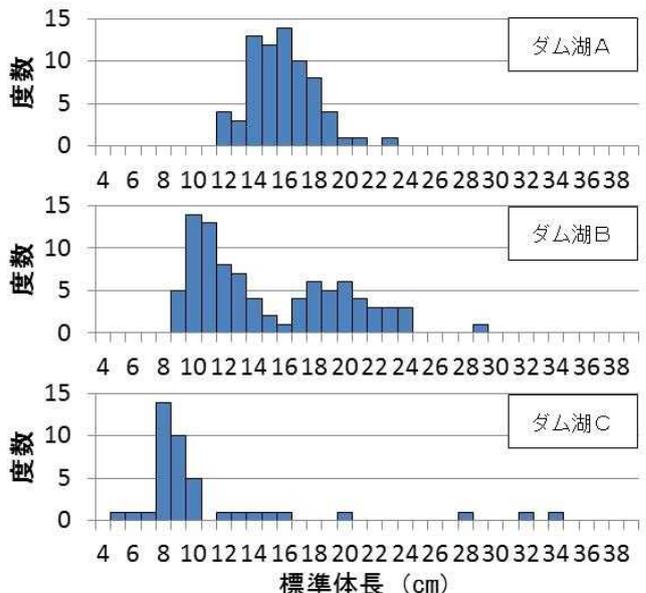


図1 ダム湖において5月下旬に電気ショッカーボートで捕獲されたコクチバスの体長組成